

## 平成30年度第1回人材支援委員会議事概要

1 日 時：平成30年5月22日（火） 13時30分～16時20分

2 場 所：文部科学省研究交流センター 3階第3会議室

3 出席者：委 員：丸山委員長（産総研）

鈴木委員（筑波大学）、矢口委員（つくば市）

西嶋委員（早稲田大学）、兼松委員（農研機構）、発委員（産総研）

事務局：広瀬事務局長、藤代次長、鈴木（記録者）

4 議 事 （○：委員発言、●：事務局発言）

冒頭、委員長から、委員会活動の再確認・検討について、前回委員会から検討をしているが、改めて意見交換をしていきたい旨の挨拶があった。

### （1）各機関における人材支援にかかる取組について

委員から、資料1-1及び資料1-2に基づき、TIA人材育成MG、シニア人材活動等について報告があった。

○Nanotech CUPAL（人材育成コンソーシアム事業）は、どういう人が受講しているのか。

→ポスドクなど若手研究者、博士後期課程の学生などである。

○TIA連携大学院サマーオープンフェスティバルは、日本人を対象としているのか。

→留学生も対象としており、東南アジアからの参加が多い。全国から参加可能で、プログラムによっては単位の取得が可能。基本的に学生は、受講料は無料で、交通費、宿泊費補助があるものもある。

### （2）人材支援委員会の機能の再確認・検討にかかる最終報告について

#### 《人材支援担当者のネットワーク構築について》

○既存ネットワークとして、例えば女性活躍のネットワーク等があるが、関係各機関・個人を除き、筑協として把握できていないのではないかと。要所要所で情報共有していくような形がとれないか。

○事務局から依頼して報告してもらうことはできると思うが、情報をもらってどうするのかという問題はある。

○本委員会に関連する課題についての状況を把握していくことは必要である。簡単にでも議事録に残していく方向でどうか。

⇒新たなネットワークを構築する必要性は低いと、状況を把握していくことは必要であり、その中で、新たなニーズが出てきた場合には、検討していくことになった。

#### 《オープン化の推進について》

○公開に異存はないし、人材支援委員会運営要領細則（案）にも異存はない。

○公開を前提とせず話をした部分がある。公開可能な部分だけ載せるという形にできないか。

- 公開することによって、闊達な議論が出ないというのは本末転倒である。逐語録ではなく、議事の要点を載せていく予定であり、委員長及び各委員に確認してもらってから、ホームページに掲載することを考えている。

⇒公開及び人材支援委員会運営要項細則（案）について、了承された。

## 《人材の育成や活用に関する取組や課題の共有等》

### 新規赴任者向け研修

- 筑協会員機関の所在マップについては、つくば市作成の“つくばマイシティ”にまとまったものがあり、これを使うことにしてはどうか。
  - 研究機関の概要紹介資料について、各研究機関の既存のパンフレットにする方法もあるが、かなりの量になることを考えると、各機関1枚程度の概要版を作成し、それを束ねるという方法もある。
  - 1枚紙資料については、当委員会というより、筑協として会員機関に依頼するのが自然ではないか。
  - これまで筑協として、各会員機関の基本情報を集めていないのか。
  - 会員機関の基本情報は集めていないので、新たに依頼するしかない。
  - 新規赴任者向け研修は、以前のアンケート調査において、中小会員機関向けサービスとして充実させてはどうか、という意見が多かったことから来ている。
  - 新規赴任者向け研修のニーズ等について、再度、アンケート調査してはどうか。
  - 再度のアンケート調査になることを考えると、ある程度の資料見本（概要）を揃えた上で聞くのが望ましいのではないか。
  - アンケート調査の内容については、事務局で案を作り、メール審議することも可能である。
- ⇒新規赴任者向けの研修用資料の見本（概要）を揃えたうえで、会員機関に対しニーズ等についての調査を行う。その結果を踏まえ、新規赴任者向け研修の必要性や方法等について検討することとなった。

### シニア関係

- ここで議論するシニアは、65才以上を対象とするのか、定年退職者を対象とするのか、それとも早期退職者なども含めるのか。
- シニアの対象を何歳からとするのは、その人の感じ方次第だと思う。
- 増加するシニアをどう活用していくのかが、今後の大きな課題である。単なるボランティア要員としてではなく、現役の3分の1程度でもいいので収入を得ながら生産活動に参加してもらえるシステムを作っていくことが重要。さまざまな分野に専門家が多いつくばでは、それができると思う。

- この委員会のタスクフォース活動で紹介しているシニア人材活動報告の事例は、退職者支援事業についてのものであり、就労の斡旋についてのものではない。その間には大きな壁があり、誤解を招きやすいところでもある。
  - シニア関係については、機関によりシニアに対する支援の度合いが違いそうだ、という前回の委員会での情報交換の中から出てきたものであり、どのように取り扱っていくかについては、もう少し調査や議論が必要だと思う。
- ⇒シニア関係については、引き続き議論していくこととなった。

#### **人材支援育成や他機関への情報共有について**

- これまでのようなタスクフォースの活動報告という形ではなく、今後は、主要機関から人材支援関連の活動状況について報告をして頂き、それを基に議論していくことにしてはどうか。
  - 会員機関への情報共有は、その際の配布資料をホームページに掲載するだけでよいのかといった問題もある。
  - 情報共有については、配布資料以外に、委員会での議論をかみ砕いて議事録に載せて公開してはどうか。
- ⇒配布資料と議事録の公開を基本とし、必要に応じさらなる情報発信も考えていくこととなった。

#### **《県・市等が実施するつくばコミュニケの実現に係る取組への支援》**

- ⇒つくばコミュニケに基づき、県やつくば市が活動を行っているが、それを継続して支援するという方向で最終報告をまとめることとなった。

#### **(3) その他**

- いろいろな研究を含め、日本人だけではやっていけない時代になっている。どんどん外国人に来てもらって頑張っていく、彼らと一緒に仲良くやっていく必要があると思う。
- 外国人はじめ、採用する権利は各機関にある。筑協や自治体は、留学生や海外からの研究者に住みやすい環境やわかりやすい情報を提供することがキーになると思う。公共交通や標識などのように自治体に負うところが大きいものについては、自治体等に提言していくことも一案。
- 留学生の中には日本での就職を希望する方もいるが、日本人学生と同じ就活をしなければならず、すごく大変。つくばでよい仕組みができないものか。そうすれば留学生を呼びやすくなり、優秀な学生が地元へ貢献することにもつながる。
- 外国人にやさしい街づくりということで英語表記、外国語表記を入れるとかいろいろ対応しているが、県道だと管轄が違い進まないなど非常に難しいところがある。

○留学生は、日本に来て学ぶという気概がある。そういった方をもっと活かす方向で何かできればと思う。

**(4) 最終報告に向けた今後の予定**

- ・総会への最終報告に向けて、今回の委員会での議論を踏まえた報告案を事務局が作成し、委員長とすりあわせを行い、とりまとめることとなった。

以上